

令和4年度 第17回入学式

令和4(2022)年4月7日

柔らかな春の陽射しの中、生きとし生けるものが躍動を始め、本校の校名にもあるさくらの花が静かに舞い立つ今日の佳き日に、PTA会長 高野 朋久 様のご臨席、並びに保護者の皆様のご出席をいただき、令和4年度 栃木県立さくら清修高等学校 入学式 を挙行できますことは、本校にとりましても大きな喜びであり、心から厚く御礼申し上げます。ただいま、入学を許可しました241名の新入生の皆さん、入学おめでとう。教職員、在校生一同、皆さんを心から歓迎します。

本校は、83年の歴史をもつ氏家高等学校と61年の歴史をもつ喜連川高等学校の伝統を受け継ぎ、平成18年4月に開校しました。皆さんは、さくら清修高等学校 第17期生 となります。

今、その第17期生としての呼名がありました。皆さん一人ひとりの「はい」という返事に、私は春の薫りのような爽やかさと、伸びる新芽の逞しさを感じました。それは、自分が選び、入試でみごと合格し、入学した、このさくら清修高等学校でのこれからの3年間で、さらに自らの将来へとつながっていく道のりなのだという自覚。新しい世界に飛び込んでいこうとする希望や期待、そして、強い決意が、この「はい」という返事に込められていたからだとは私は考えます。この「はい」という返事は、スポーツにあてはめれば、開会式での「選手宣誓」と同じです。今、自らが、行った「選手宣誓」に込めた、その初心を決して忘れないでください。

皆さんの中学校での生活は、2年生から大きく変わりました。新型コロナウイルスのために学校が、突然、休校、時差登校、分散登校となりました。部活動の各種大会や学校行事が急遽中止になりました。普段の学校生活にも様々な制限がかかり、いろいろな「苦しさ」があったと思います。しかし、皆さんはその「苦しさ」に耐え、乗り越え、今日を迎えています。まず、そのことに「自信」と「誇り」をもち、本校での学びをスタートさせてください。

今日は、そのスタートとなる大切な節目の日です。その節目となる今日、私から3点話をします。

1点目は、「人は、人と関わりながら成長する。」ということです。本校は、「総合学科」の高校です。「総合学科」とは、「生徒一人ひとりの志望や適性に応じた学びを実現する学科」です。そのため、本校では、幅広い分野にわたって、他の学校には無いような特色ある多彩な科目が数多く用意され、皆さんは、その中から自分の希望や進路に応じて科目を選び、学ぶことができます。

ます。「総合学科」では、自分の時間割を自分でつくり、学習していくのです。

しかし、このことは、自分自身を深く見つめ、自分の適性、将来の進路について、しっかりと考えていかなければ、何の科目を選んでよいのかがわからなくなってしまう、ということです。

自分の適性や進路を真剣に考えていくとき、大切なのは、人との交わり、人との関わりです。世の中には、一人だけでは学べないことがたくさんあります。人と人が、お互いに関係しあい、影響しあい、人と人との相互作用、相乗効果で、人は成長していきます。その成長の道のりのなかで、自分の適性や進むべき道が少しずつ見えてくるのです。

だから、学校は休まない。毎日、登校し、人と関わる。先生の話聞く。授業を受ける。友人と話す。部活動や委員会活動に取り組む。このように、人と関わりながら1日、1日を丁寧に積み上げていくことが自分の成長につながっていくという事を忘れないでください。

2点目は、「高校生は、自分で考え、自分から行動する。」ということです。本校は、1学年6クラスで、県内の公立高校として、学校規模は大きい方です。そこに、たくさんの生徒と先生が学校生活を共にしています。その意味で、学校は小さな社会です。そして、皆さんは、その社会の一員です。皆さんは、まだ大人ではないけれど、しかし、もう子供でもありません。学校という社会の一員としての責任を自覚し、学校をさらにより良くするため、ひいては、自分の高校生活を充実させるため、自分で考え、自分から行動していくことが大切です。これを「主体性」といいます。この「主体性」をもって、勉学はもちろんのこと、学校行事や部活動、地域のボランティア活動等に取り組みながら、自分の視野と可能性を広げ、資質と能力を高めていく。これが高校生の成長です。先生からの指示を単にノルマとして従うだけの受け身の態度では、高校生としての成長はありません。自分で考え、自分から行動した経験は、「主体性」を高めます。将来、大人として自立していくために、「主体性」を培っていくという意識を持ちながら高校生活に取り組んでください。

3点目は、「すべては、皆さんの心の持ち方しだい。」ということです。よく、「高校時代は難しい。」と言われます。それは、皆さんが、「まだ大人ではないけれど、もう子供でもない。」また、「何者にもなれる可能性があるが、まだ、何者でもない。」このような矛盾を抱えながら、最も多感な年代を過ごしていくのが高校時代だからです。その高校時代を今日からスタートさせる皆さんの心の内には、希望と期待とともに、若干の不安もあると思います。

そのような皆さんに、今日の入学式にあたり、私は一編の詩を紹介します。

アメリカの詩人、ウィルコックスの「人生の嵐」という詩です。

吹いている風が全く同じでも、
ある船は東へ行き、ある船は西へ行く。
進路を決めるのは風ではない。
帆の向きである。
人生の航海でその行く先を決めるのは、
なぎでもなければ、嵐でもない。
魂の構えである。

高校時代を、今後の人生にとって価値ある時間にするか、しないかは、皆さんの「魂の構え」、心の持ち方しだいです。さくら清修高等学校で、これから、新たな学びを与えてくれる先生方や、共に励んでいく仲間たちとの出会いが待っています。さくら清修高等学校に吹く素晴らしい風をしっかりと捉え、高校生活の三年間を自分自身にとって本当に実り多いものにしてください。

最後に、ご列席いただきました保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。私たち教職員一同は、お子様の成長をこれから全力で支えてまいります。

そのうえで、お願いがあります。先ほど入学生に話したように、高校時代は多感で不安定な時期です。したがって、様々な試行錯誤をしながらお子様は成長していきます。大人からすると、安心して見ていられない、ヤキモキするようなことがあるかもしれません。必要な時にはしっかりと支える。一方で、ぐっと我慢して、お子様を信じ、ゆっくりとその成長を見守っていくことも大切です。

だからこそ、ご家庭と学校がそれぞれの役割を果たしながら、丁寧に連携をとっていくことが大切です。保護者の皆様におかれましては、お子様の成長をともに支えていく同志として、本校の教育活動に対する御理解と御協力を何とぞお願い申し上げます。

結びに、さくら清修高等学校 第17期生 の本校での成長と輝かしい未来、ご列席皆さまのご健勝とご発展を心よりお祈りし、式辞といたします。